



# 青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成29年度 第142号 7月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

## 第13回 あおきっ子合宿

今年度のあおきっ子合宿は、5月14日(日)～20日(土)の6泊7日文化会館で行われ、小学4年生から6年生の希望者56名と信州大学教育学部から学生26名が参加しました。

今回のテーマは「みっけ!!」ということで、子ども達が友だちの新たな一面や良い一面を「みっけ!!」できるように一日一枚の小さな紙を渡し、そこにみつけたことを書いてもらうという企画でした。はじめは自分のことや普段仲の良い友だちしか見ていなかった子も、合宿を通して男女学年班関係なく友だちの良いところを見つけられるようになり、また内容も「頑張った」だけでなく、「〇〇君が〇〇をしていた」と具体的に書くことができるようになりました。

くつろぎの湯が利用できない月曜日は、下形文幸さん、上原昌子さん宅やラポート青木へもらい湯に行かせて頂きました。夕食の準備は一般ボランティアの方々と一緒に行いました。小学校の先生方、保護者の皆さん等大勢の方々のご支援により、無事に終えることができました。

.....  
合宿をとおして、子どもたちの成長した姿や新しく発見した良い面、感じた事などを大学生の皆さんにお聞きしました。その中の一部を紹介いたします。  
.....

★「ありがとう」の言葉が自然とでるようになった。最初は男女の仲が良いとは言えず、会話も少なく、どうしたらよいかと考えた時、まずは何かしてもらった時に「ありがとう」を言うことから始めようと決めた。「ありがとう」を言う場面の時、「今、何か言うべきじゃない？」や「ありがとうは？」などの言葉がけを始めると、だんだん





会話も増えていき、最終日にはほぼすべての班の子どもが自然に「ありがとう」が言えるようになっていた。最後まで私が言うことを無視したり、睨んだりしていたA君も、終わりの会の後お母さんさんと一緒に来て、「ありがとう」と言ってくれた。お母さんいわく「自分から言いたいと言ってきた、こんなこと初めて」とおっしゃっていて、自分がやってきたことに意味はあったのだと安心した。

★時間を守るようになった。当初はお風呂やそうじの時間を特に男子が守れず、開始が遅れるために女子を怒らせるといったことが続いていたため、頭を悩ませていた。どうしようかと悩んでいるうちに、6年のB君がそれに気づいて、男子に声をかけてくれるようになった。最後の方は集合の5分前には全員集まるようになり、子どもの力はすごいということを感じた。

★3日目からの参加でしたが、来たときはみんな落ち着いていて心配いらないなと感じました。場面の節々で「あれ？」と思うことも、日が経つにつれて、進んで洗い物をしたり、配膳をしたりと子どもたちの行動が変わってきました。特にC君が輪を乱す場面が多かったのですが、同じ班の子がサポート役に回り良いチームワークができていたと思います。みんな大人っぽい子だったので、もっと私たちが子どもらしい一面を引き出せることができたならよかったかなと思いました。下級生だからといっておじけづくことなく上級生にも注意する場面があり、とてもいいなと思いました。

★班のチームワークが成長し、班のまとまりが生まれました。最初は個々で話したり作業をしたりすることが多く、リフレクションの場面でも話しを聞かない子がいました。班のまとまりが生まれ始めたのは、火曜日のオムライス作り。そして、水曜日、学生が少ない時に自分たちだけでお風呂



に行ってくれたこと、さらに夜に行った肝試し。そのような班で協力する場面や助け合  
って初めて乗り越えられることを乗り越え、班としてのまとまり、良さが生まれたのだ  
と思います。



★最初、子どもたちの交流は、仲の良い友だち同士、学生と子どもという場面を見ることが多かった。しかし、ナイト企画や班での料理等、学校ではなかなか経験出来ないような行事を通して、子ども同士、学年や男女を越えた交流を創りあげていた。特に女の子は、グルー

プ内での仲を大切にするので、他の人々との関わり合いが希薄になるが、このような合宿では必ずグループ以外の人との交流をしなくてはいけない環境になる。

★6年生男子は、班での活動についてはじめは消極的であったが、水曜日に学生がいなくても頑張ろうといったスローガンのもとで、協力をするを通して、班の活動をより良いものに、また他者を思いやることができるようになった。

★5年生の男子で、宿題をやらなかった子がいて、その日居残りでやり、次の日はやってから遊ぶと約束した。しかし、次の日私は日中青木村にいられなかったので、22時ごろ帰ってくると、まだやってない姿。彼は「めんどくさい」といってやらなかったが、学生の話によると前日私と居残ったことが、どうやら楽しかったらしく、次の日も一緒にやりたかったらしい。このことから、厳しくいけないことはいけないと理解させる難しさと、子どもの発する言葉への違和感はその子どもの気持ちになって考えてみる必要があると感じた。



★最終日、「親からの手紙」を見て泣きそうだった。憎まれ口を叩いた事も多かったが褒められると心の底から喜んでいた。



★最初は、発表を嫌がったが、後半になるにつれ自分から発表するようになり、班長の自覚も出てきた。

★班で、移動するときも班長をサポートして指示を出していた。

★最初は、途中参加ということもありほとんど話していなかったが、時間が経つにつれてうちとけた。

★月曜日に「帰りたい」「班が嫌だ」と言っていたが、最終日は言葉にこそ出さなかったが、合宿に来てよかったと示してくれた。

★班の中で、一番しっかりしており、配膳など、進んでやってくれていた。

★リーダーのD君は、初日リーダーとしての自覚がなく学生から次にやることを指示されていた状況で、班員に学生からの言葉をそのまま伝えるという様子であった。水曜日は学生が授業に行っていたので、班の子を見ることが出来なかった。その時に、D君が班員にお風呂の時間を自分で伝えたり、次に何をするかを自分自身で考えて伝えていた。この日のリフレクションの時に、D君が「リフレクションを始めます。」と言って、リフレクションを回し始めた。この日から、リーダーシップをとるようになった。学生がいなくても、リーダーとして班をひっぱる姿勢を日に日にみせてくれた。

★学生にとっても甘える事が多かったが、活動を終え、たくましくなった。

★一人で行動する事が多かったが、班の為に配膳を進んでやる姿がみられた。

★最後まで面倒な事をやりたくないと言っていたが、配膳と食器ふきはきちんとやってくれていた。

★最初は、他の子が悪い事をし



ていたり、汚い言葉を使っていたりしても、知らんぷりをしていた。しかし、班員との距離が縮まるにつれ、他の人の悪い行いを指摘するようになっていた。



★リフレクションノートに何も書かなかったり、お風呂の時間を守らなかったり、宿題を全くしなかったりという様が多かった。学生のいない水曜日に、今ま

で出来ていなかった事を全てきちんとやり遂げていた。この日に自分で出来るという達成感や喜びを得たようで、次の日から最終日まで自ら行動する場面が多くあり宿題や時間など全てきちんと出来るようになった。

★2日目くらいのリフレクションノートの頑張りたいことの所に「もっと発言したい」と書いてあった。次の日から班会で自分からお風呂の時間を伝えたり、他の子が悪い事をしていたら、ちゃんと注意をするようになった。

★班の子とあまり話そうとしなかったが、班員との距離が縮まるにつれ男女関係なく話すようになった。

★下級生に自ら色々な事を教えていた。班の子と関わろうとしない場面が最初は多くあったが、自分から班員に話題をふったりして、良い対人関係を彼女なりのテンポで築けていた。

★保護者のお手紙で涙する姿が見られた。

★E君は何でも積極的に手伝ってくれました。印象的だったのが、トイレ掃除の時に、「何か他に手伝うことある？」と聞いてきた事です。言われた事だけでなく、自分から仕事を探しに行く姿が良いと思いました。



★自分以外の男子3人がふざけ始めても、ぐっとこらえてやるべき事を常にしていた。配膳もよく手伝ってくれるし、最後のレクリエーションでは、ポーズをする順番を考えてノートに書いてくれたので、ゲームがすごくスムーズに進んだ。



★絵や文章がとても上手で、月曜日のもらい湯のお礼状やお手紙の返事を丁寧に書いていた。

★4年生の頃は、人懐っこくて物静かな子で、活動する時は先頭ではなく必ず学生と行動していたが、6年生になった今年は妹も参加しているせいか、すごく自立していた。自分で率先している姿は、2年前とは違い成長が感じられた。

★最初は何を言っても「えーでも、だってー私がやりたいんだもん」と言っていたが、学生の少ない水曜日から「今やる時間じゃないよね？」と言うと、「うん、わかった。」とすぐに聞くようになったのは、すごい成長だと思う。



## 編集後記

学生さん達のアンケートを読ませていただくと、参加した子ども達一人ひとりの成長した様子がとても良く伝わってきます。今年も青木村出身の学生が2人来てくれました。自身が小学生の時に合宿に参加した方もいます。大学生になり、青木の子ども達と関わる活動をしてきていることをとても嬉しく感じます。